

第 37 回分子病理学研究会 はがくれシンポジウム

The 37th Annual meeting of Japan Society for Molecular Pathology

研究道と云ふは 研愉しむ事と 見付けたり

会期：2018年7月7日（土）～7月8日（日）

会場：佐賀大学鍋島キャンパス 医学部臨床大講堂

会長：青木茂久 佐賀大学医学部病因病態科学講座

研究会プレ企画

第 37 回分子病理学研究会
佐賀大学医学部若手研究者の会 共催

はがくれ研究道場（7月7日）

第37回 分子病理学研究会 はがくれシンポジウム

プログラム・抄録集

研究道と云ふは 愉しむ事と見付けたり

会 期：2018年 7月7日(土)・8日(日)

会 場：佐賀大学鍋島キャンパス 医学部臨床大講堂

〒849-8501 佐賀市鍋島5-1-1 TEL：0952-31-6511(代表)

会 長：青木 茂久 佐賀大学医学部病因病態科学講座

主 催：分子病理学研究会

第37回分子病理学研究会 事務局

佐賀大学医学部病因病態科学講座 臨床病態病理学分野

〒849-8501 佐賀市鍋島5-1-1

TEL：0952-34-2239 (office hours 10:00-15:00)

FAX：0952-34-2055

E-mail：37thmolpathol@gmail.com

ご 挨拶

第37回分子病理学研究会

会長・世話人 青木 茂久 佐賀大学医学部
病因病態科学講座

この度は第37回分子病理学研究会にご参加頂き誠にありがとうございます。分子病理学研究会の最大の特徴は、医学や分子生物学の範疇を超え、あらゆる領域の自然科学をじっくりと愉しめることです。本研究会は毎年全国各地にて開催され、全国の諸先生方の積極的なご参加による大変素晴らしい伝統ある研究会です。

本年の研究会は佐賀県で開催されます。今から150年前、現代の日本以上に混迷を極めた幕末期、この辺境の佐賀の地から鍋島直正(佐賀藩十代目藩主)、大隈重信(総理大臣、早稲田大学創設者)、佐野常民(日本赤十字社創始者)、島義勇(北海道開拓使主席判官)をはじめとする多くの偉人が生まれ育ち、また当時、未踏の最新西洋技術であった金属製錬用反射路の建設、日本初の実用蒸気船「凌風丸」を完成させました。決して裕福でも無く、首都からも遠く離れたこの肥前の国が牽引した明治日本の近代化の偉功は、現代の私たちにとっても貴重な指標となるものです。今回、そうした先人を育んだ佐賀の地で、分子病理学研究会を開催できることを大変ありがたく光栄に思っております。

特別講演では日本を代表する4名の先生方から世界をリードする独創的な研究に関してご講演いただきます。指定・一般演題では医学・農学・工学・理・薬学分野から各専門の先生方によるご発表と討論をしていただきます。異分野の組み合わせから新しい連携と革新的な新技術が生まれることを心より期待しております。

最後になりましたが、本研究会の開催に際してご支援頂きました医療機関、各種企業、団体の皆様、また特別講演、教育講演、指定演題でご発表いただく皆様、さらに一般演題でご発表いただく皆様、ご参加いただく皆様のご協力に対し、当会長として心より感謝申し上げます。

会場アクセス

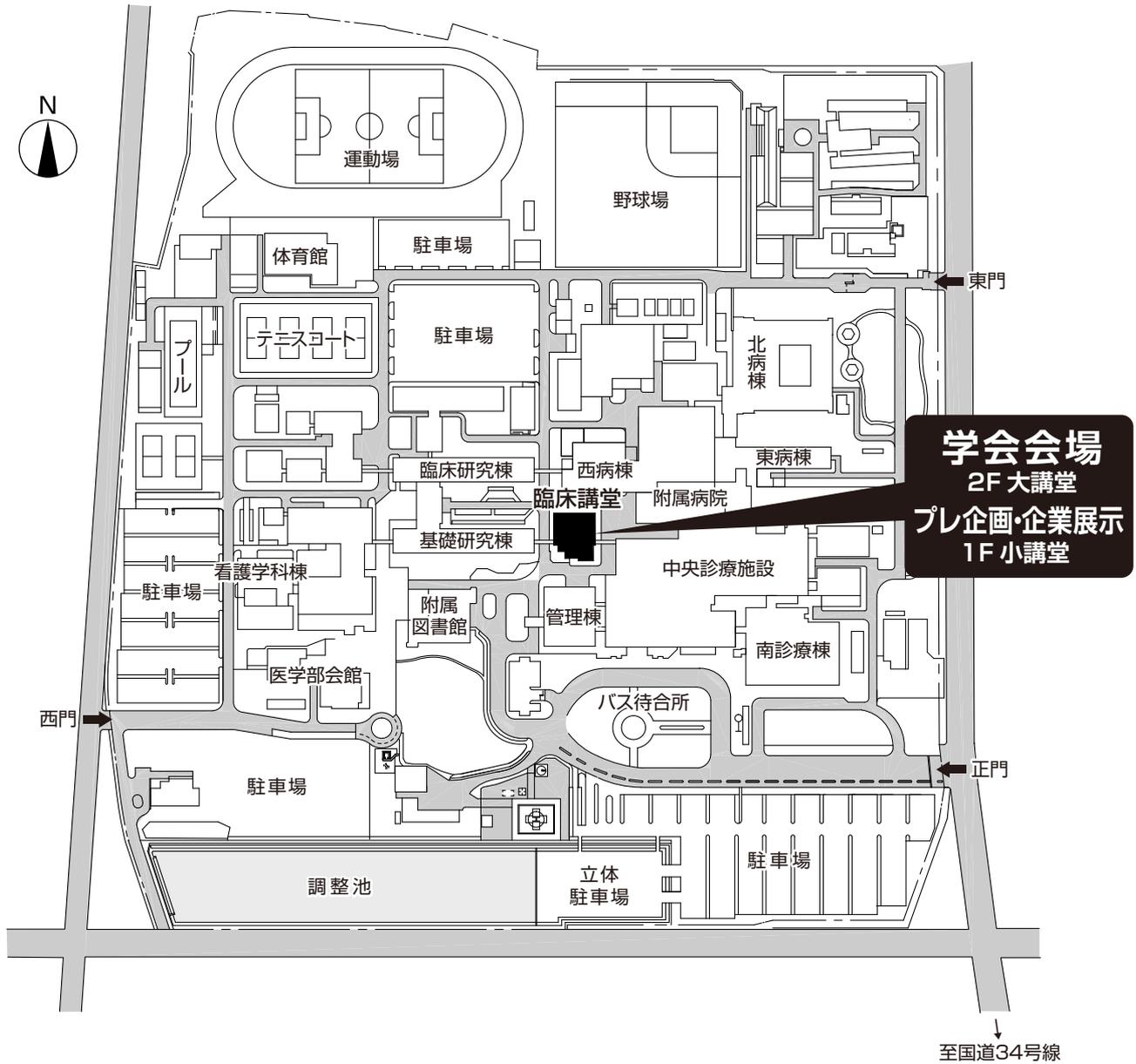


会場へのアクセス

- 佐賀空港→佐賀駅へ
佐賀駅バスセンター行きに乗車
→『佐賀駅バスセンター(終点)』下車(約35分)
- 佐賀駅→佐賀大学医学部へ
行先番号 50(神野公園・佐大医学部行き)もしくは、
行先番号 51(卸センター・佐大医学部行き)に乗車
→『佐大医学部(終点)』下車(約25分)
- タクシー 佐賀駅北口から乗車 → 佐賀大学医学部附属病院で降車(約15分)
- 自家用車 佐賀大学附属病院の外来用駐車場をご利用下さい。

会場案内図

鍋島キャンパス



参加者へのご案内

参加受付

会場名：佐賀大学鍋島キャンパス 臨床大講堂前ホール

日時：7月7日(土) 12:00～18:00

7月8日(日) 8:30～12:00

参加証・領収証

学会参加証と領収証は会場受付にてお渡し致します。

ご昼食

7月7日(土)は昼食(お弁当)を用意致します。

※食物アレルギーには対応しておりませんので、必ずご確認ください。

会場内での注意事項

- 演者の許可なしに、写真撮影・録画はご遠慮ください。
- 会場内では携帯電話の電源をオフにするか、マナーモードにして頂くよう、ご協力をお願い致します。
- 佐賀大学は敷地内全面禁煙となっております。

座長・演者へのご案内

共通のご案内

- 基本使用ソフトは Windows 10, Microsoft, Power Point 2016 になります。
- Mac OS, Keynote をお使いの先生方はご自身のパソコン使用をお勧め致します。
- パソコンの音声出力はできませんので、予めご了承ください。
- ご自身のパソコンを使用される場合、必ず AC アダプターをご持参ください。
- 液晶プロジェクターの解像度は XGA (1024 × 768) です。解像度の切り替えが必要なパソコンは、本体の解像度を予め設定しておいてください。

特別講演・教育講演 講師の皆様へ

- 特別講演は発表45分、質疑応答15分でお願い致します。
- 教育講演は発表25分、質疑応答5分でお願い致します。
- 発表の先生方におかれましては、発表データないし発表用パソコンを、会場内のPC接続場所(演台)に控えているオペレータまで、開始15分前までに直接ご持参ください。

指定演題・口演発表者の皆様へ

- 指定演題は発表25分、質疑応答5分でお願い致します。
- 一般口演は発表10分、質疑応答5分でお願い致します。
- 発表の先生方におかれましては、発表データないし発表用パソコンを、会場内のPC接続場所(演台)に控えているオペレータまで、13時20分までに直接ご持参ください。

ポスター発表者の皆様へ

- ポスターパネルにポスター番号と固定用のマグネットを準備しております。マグネットが不足した場合は、係までお申し付けください。
- ポスター発表者は、以下のスケジュールに沿ってポスター掲示・示説・撤去を行ってください。

ポスター掲示	7月7日(土) 12:00～17:30
ショートプレゼン	7月8日(日) 8:50～9:50(臨床大講堂)
ポスター示説	7月8日(日) 9:50～10:40
ポスター撤去	7月8日(日) 10:40～12:30(送迎バス出発時刻まで)

- ポスター示説に先だって、発表要旨を短時間で口頭発表して頂く、ショートプレゼンの時間を前述の通り設けています。発表時間は1分で事前にお渡し頂いているスライドを順次表示致します。発表時間が短いため、予めポスターの番号順に演台近くの次演者席に一列に並んで頂き順次発表していくスタイルで行います。この点に関して事前説明を行いますので、各演者は8時40分までに会場前方にご集合ください。
- 会期中にポスター発表の中から最優秀賞を選考し、7月8日の閉会式で表彰致します。審査についてはショートプレゼンテーションとポスター発表の両方を対象と致します。
- 撤去時間を過ぎても提示されているポスターは学会事務局にて処分致します。

座長・演者の皆様へ

- 会場前方に次座長席、次演者席を設けております。ご担当のセッション開始の10分前までに、次座長席、次演者席にご着席ください。

日 程 表

7月7日(土) 佐賀大学鍋島キャンパス

7月8日(日) 佐賀大学鍋島キャンパス

医学部臨床講堂 2F 大講堂

医学部臨床講堂 2F 大講堂

10:00	10:00~12:00	医学部臨床講堂 1F 小講堂 研究会プレ企画 はがくれ研究道場 座長：田中 伸哉(北海道大学)	
11:00			
12:00	12:00~	開場・受付開始	
13:00	12:00~17:30	胃癌の創薬支援に資する研究基盤の 確立と遺伝子変異・発現情報エンサ イクロペディアの作製	ポ ス タ ー 掲 示
	13:25~13:30	開 会 式	
	13:30~14:00	指定演題 演者：柳原 五吉(国立がん研究センター) 座長：加藤 光保(筑波大学)	
14:00	14:00~15:00	一般演題 O-1~O-4 座長：加藤 光保(筑波大学)	
15:00	15:10~16:10	特別講演1 線虫がん検査 N-NOSE の発明と実用化 ~基礎科学、医学、ビジネスの融合~ 演者：広津 崇亮(HIROTSU バイオサイエンス) 座長：刀襦 重信(東京電機大学)	
16:00	16:10~17:10	特別講演2 形態病理診断のシンギュラリティ (技術的特異点)と臨床病理対比 演者：市原 真(JA 北海道厚生連札幌厚生病院) 座長：森本 景之(産業医科大学)	
17:00	17:30~18:30	特別講演3 肝再生の細胞生物学的基盤と iPS細胞からの肝組織構築 演者：宮島 篤(東京大学定量生命科学研究所) 座長：横崎 宏(神戸大学)	
18:00	18:30~	ホテルへ移動 世話人会	
	19:30~	夕食・宿泊会場	千代田館

8:00	8:10~	ホテルから移動	
9:00	8:50~10:40		ポ ス タ ー 発 表 ・ 討 論
10:00	8:50~9:50 ショートプレゼン 9:50~10:40 ポスター示説		
11:00	11:00~12:00	特別講演4 免疫系の多様性と特異性を読む 演者：鈴木 隆二((独)国立病院機構相模原病院) 座長：益谷 美都子(長崎大学)	ポ ス タ ー 撤 去
12:00	12:00~12:30	教育講演 世界で初めての、成熟脂肪細胞の培養 演者：杉原 甫(高邦会高木病院・佐賀大学) 座長：國安 弘基(奈良県立医科大学)	
	12:35~	表彰式・次期会長挨拶	
	12:40~	閉 会 式	

プログラム

7月7日(土) 佐賀大学鍋島キャンパス 医学部臨床講堂 1F 小講堂

研究会プレ企画 はがくれ研究道場 10:00～12:00

座長：田中 伸哉(北海道大学大学院医学研究科)

- 1 未踏技術開発の欲望と職人魂：
病理切片上の細胞培養と夢のコラーゲン素材
竹澤 俊明 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)
- 2 なぜ海外留学・海外出張が必要なのか？
攻殻機動隊から細胞用接着剤に至る過程とともに
小島 伸彦 横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科 生命環境システム科学専攻
- 3 修羅の国(?)の研究事情：流転から生じる研究の展開
森本 景之 産業医科大学 医学部第2解剖学講座 教授
- 4 地方大学の研究戦略：
弱小研究室から生まれた革新的人工皮膚
青木 茂久 佐賀大学医学部 病因病態科学講座 臨床病態病理学分野

7月7日(土) 佐賀大学鍋島キャンパス 医学部臨床講堂 2F 大講堂

開場・受付開始 12:00～

開会式 13:25～13:30 会長：青木 茂久(佐賀大学医学部病因病態科学講座)

指定演題 13:30～14:00

座長：加藤 光保(筑波大学医学医療系実験病理学研究室)

胃癌の創薬支援に資する研究基盤の確立と 遺伝子変異・発現情報エンサイクロペディアの作製

柳原 五吉 国立がん研究センター 先端医療開発センター バイオマーカー探索 TR 分野

座長：加藤 光保（筑波大学医学医療系実験病理学研究室）

- O-1** がん幹細胞マーカー CD133は細胞内に輸送されて中心体近傍に局在し、オートファジーを抑制してがん細胞の未分化能を維持する
泉 秀樹 佐賀県医療センター好生館 ライフサイエンス研究所 疾患遺伝子研究部
- O-2** マクロファージ由来のエクソソームによって運ばれる歯周病原菌因子の動態
岡村 裕彦 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔形態学分野
- O-3** 惹起相を有する新しい局所リンパ節アッセイ(LLNA: DAE法)の開発
山下 邦彦 大阪大学大学院医学系研究科 高速エネルギー治療学共同研究講座
- O-4** 未開拓の生物資源、微細藻類「ボトリオコッカス」
出村 幹英 佐賀大学 農学部 生命機能科学科

特別講演1 15:10～16:10

座長：刀禰 重信（東京電機大学・理工学部生命理工学系分子発生生物学研究室）

線虫がん検査 N-NOSEの発明と実用化
～基礎科学、医学、ビジネスの融合～

広津 崇亮 HIROTSU バイオサイエンス 代表取締役

特別講演2 16:10～17:10

座長：森本 景之（産業医科大学医学部 第2解剖学）

形態病理診断のシンギュラリティ(技術的特異点)と臨床病理対比

市原 真 JA 北海道厚生連札幌厚生病院 病理診断科

特別講演3 17:30～18:30

座長：横崎 宏（神戸大学大学院医学系研究科病理学講座病理学分野）

肝再生の細胞生物学的基盤とiPS細胞からの肝組織構築

宮島 篤 東京大学定量生命科学研究所

世話人会 18:30～

夕食・宿泊会場 19:30～ 千代田館

ポスター発表・討論 8:50~10:40

ショートプレゼン 8:50~9:50

ポスター示説 9:50~10:40

P-01 組織修復における骨髄間葉系前駆細胞 (Fibrocyte) による血管新生メカニズム

岡根谷 哲哉 東邦大学医療センター 大森病院 形成外科学講座

P-02 生後におけるマウス小腸上皮とメチル化の関連

馬場 良子 産業医科大学 医学部 第2解剖学

P-03 発生期哺乳類大脳皮質における神経細胞移動は癌細胞の間葉上皮転換と同じ仕組みを持つか？

林 周宏 慶應義塾大学 医学部 解剖学教室

P-04 肝星細胞 (hepatic stellate cell) 研究の変遷について

仲谷 和記 四天王寺大学 教育学部教育学科 保健教育コース

P-05 SEM 連続断面観察法によるラット精巢における造精細胞のミトコンドリアの三次元微細構造解析

若山 友彦 熊本大学 大学院生命科学研究部 生体微細構築学分野

P-06 免疫染色画像解析ソフトウェアを用いた食道扁平上皮癌組織免疫染色画像のマクロファージ形態計測

西尾 真理 神戸大学大学院 医学研究科 病理学講座 病理学分野

P-07 がん治療における放射線増感標的遺伝子の包括的探索の研究

小野寺 貴恵 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 フロンティア生命科学研究分野

P-08 Next-Generation Sequencing Analysis of Japanese Pulmonary Large Cell Carcinoma

有働 恵美子 長崎大学医歯薬学総合研究科・病理学

P-09 Analysis of expression of phosphatase and tensin homologue and programmed cell death ligand 1 in lung adenocarcinoma

Aung Myo Hlaing
長崎大学病院 医歯薬学総合研究科 病理学

P-10 AutoDock Vina と Hex を組み合わせた新規ドラッグスクリーニング法の確立

大津 諒河 九州工業大学 情報工学府 学際情報工学専攻 生命情報工学分野

P-11 2種類のドッキングツールを用いたパラレル化合物スクリーニング系の確立

中島 淳平 九州工業大学 情報工学府 学際情報工学専攻 生命情報工学分野

- P-12** 足場非依存的増殖能における TMEPAI の機能解析
渡邊 幸秀 筑波大学 医学医療系 実験病理学
- P-13** リノール酸による休止性幹細胞関連シグナル経路の検討
緒方 瑠衣子 奈良県立医科大学 分子病理
- P-14** 脂漏性角化症の瘙痒感には肥満細胞が関与する？
高市 美佳 大阪市立大学大学院 医学研究科 皮膚病態学
- P-15** シェーグレン症候群疾患モデルの自己免疫病変における
濾胞ヘルパー T 細胞の役割
大塚 邦紘 徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔分子病態学分野
- P-16** 喘息モデルマウスの骨代謝調節とメカノセンサーチャネルの機能
高 瑋琦 佐賀大学 医学部 生体構造機能学組織・神経解剖学
- P-17** 喘息モデルマウスの機械的アロディニアと TRPV1
曹 愛琳 佐賀大学 医学部 生体構造機能学組織・神経解剖学
- P-18** S アデノシルメチオニンの抗腫瘍効果についての検討
誉田 尚子 奈良県立医科大学 分子病理学
- P-19** ヒアルロン酸過剰蓄積による膵島細胞の insulin 分泌活性への影響
戸谷 慶司 横浜市立大学 生命ナノシステム科学研究科 小島研究室
- P-20** OATP 取り込み活性における培地添加物の影響
浅島 佳実 横浜市立大学 国際総合科学部 再生生物学研究室
- P-21** 物質交換能の向上を目指したスフェロイドの作製と維持の検討
九川 真衣 横浜市立大学 国際総合科学部 小島研究室
- P-22** メチルセルロース法による高機能化膵島作製のための構成細胞数の検討
浜川 友里 横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科
- P-23** 非対称性リポソームの新規調製法の検討と評価
光武 祐希 佐賀大学大学院 工学系研究科 循環物質化学専攻
- P-24** アルギン酸カルシウムゲルに現れる螺旋形態の解明
岩本 結衣 佐賀大学大学院 工学系研究科
- P-25** 神経再生工学における両電荷を有するハイドロゲルの開発
谷川 聖 北海道大学大学院医学研究院 腫瘍病理学教室

- P-26** 肝転移性大腸がんの代謝と遺伝子発現
清川 悦子 金沢医科大学 医学部 病理学 I
- P-27** 胃癌において Annexin A10 (ANXA10) は Pancreatic duodenal homeobox-1 (PDX1) を介して胃型形質を誘導する
石川 洸 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科 分子病理学研究室
- P-28** 脂肪組織と流体刺激は胃癌の細胞動態と HER2 発現を制御し、分子標的薬への感受性を変化させる
芥川 剛至 佐賀大学医学部 病因病態科学講座
- P-29** 毛細胆管様構造を形成した HepG2 細胞 (ヒト肝がん細胞株) と TFK-1 細胞 (ヒト胆管がん細胞株) の共培養システムにおける胆汁排泄トランスポーター MRP2 の解析
押方 歩 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門
- P-30** 幹細胞を簡便、安全に分取し、高機能化増幅する革新的器具の開発
鈴木 孝尚 ネットバジーン株式会社 商品企画開発部
- P-31** 三次元骨髄様組織における血球細胞組成の解析
佐用 かなえ 横浜市立大学 生命ナノシステム科学研究科 小島研究室
- P-32** 三次元培養による組織モデルが明らかにする脂肪分化・代謝機能の制御
赤間 剛 横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科
- P-33** 生殖毒性の検出に適した精細管様構造を有する精巣様組織の作製
小野 拓也 横浜市立大学大学院 生命ナノシステム科学研究科 生命環境システム科学専攻 小島研究室
- P-34** 長期間の細胞機能維持を可能とする簡便な組織片培養法
西瀬戸 美沙 佐賀大学 医学部 医学科

特別講演4 11:00~12:00

座長：益谷 美都子 (長崎大学大学院医歯薬総合研究科生命医科学講座フロンティア生命科学分野)

免疫系の多様性と特異性を読む

鈴木 隆二 (独) 国立病院機構相模原病院・臨床研究センター・臨床免疫・室長
Repertoire Genesis 株式会社 代表取締役

教育講演 12:00～12:30

座長：國安 弘基（奈良県立医科大学分子病理学）

世界で初めての、成熟脂肪細胞の培養

杉原 甫 高邦会高木病院 病理部、佐賀大学 名誉教授

表彰式・次期会長挨拶 12:35～

次期会長：石丸 直澄（徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔分子病態分野）

閉会式 12:40～ 会長：青木 茂久（佐賀大学医学部病因病態科学講座）

特 別 講 演
教 育 講 演
指 定 演 題

線虫がん検査 N-NOSE の発明と実用化 ～基礎科学、医学、ビジネスの融合～

広津 崇亮

HIROTSU バイオサイエンス 代表取締役

医療分野の検査はほぼ全てが人工機器あるいは人工キットによって行われている。がんを早期発見するためには、まだがん組織が小さいため、その小さい組織を画像で捉える場合でも、微量のがんマーカーをセンサーで検知する場合でも、機械のスペックを大きく上げる必要があり、結果として高価な検査ができてしまうことが多い。よって、人工機器に頼った場合、高精度と低コストを両立するのが難しいという大きな壁がある。そこで低コストを追求するために簡易キットを作ると、今度は高精度を満たせない問題に直面する。そのジレンマを打破する可能性があるのが、新しいコンセプト「生物診断」である。線虫がん検査 N-NOSE は、人工機器より感度が高い生物の嗅覚を利用し、飼育コストが低い線虫を使うことで、高精度と低コストを両立させているところが大きな特色である。

我々はがんマーカーとして「がんの匂い」に着目した。人工匂いセンサーは現時点では感度、選択性の両立が難しく、がん探知犬は飼育にコストがかかって高価な検査になってしまうことから実用化は困難である。そこで我々は線虫 *C.elegans* に注目することにした。*C.elegans* は犬を上回る 1,200 個の嗅覚受容体を有する嗅覚の優れた生物であり、匂いに対して寄る、逃げるといった走性を示すため解析が容易である。さらに雌雄同体のため掛け合わせの必要がなく、全ての個体が遺伝的にクローンであり、凍結保存により株が維持でき、飼育コストが非常に安い。これらは検査に用いる上でも大きなメリットである。

我々は線虫 *C.elegans* ががん患者の匂いを尿で識別できることを発見した。線虫はがん患者の尿には誘引行動を、健常者の尿には忌避行動を示した。この行動は嗅覚神経を破壊すると見られなくなることから、線虫は尿中のがんの匂いを検知していることがわかった。また、線虫の嗅覚神経ががん患者の尿に有意に強く活性化することも観察された。242 検体を用いた試験により精度を調べたところ、感度は 95.8%、特異度は 95.0% であった。調べた約 10 種類のがんについて、ステージ 0、1 の早期がんでも高感度に判別できた。既存の腫瘍マーカーと比較したところ、感度が圧倒的に高く（腫瘍マーカー = 15% ~ 25%）、早期がんでも感度が変わらないのが大きな違いであった。

線虫がん検査 (N-NOSE) は、①尿を用いるため非侵襲、②簡便、③安価、④高精度、⑤がん種網羅的、⑥早期発見可能といった特長を併せ持つ。これらの特徴から、N-NOSE は世界初の 1 次スクリーニング検査として用いられる期待がある。N-NOSE が実用化すれば、がん検診受診率を大きく上昇させる可能性がある。結果として、早期がん発見率の向上が見込まれ、がん死亡者数の大幅減少、医療費の大幅削減が見込まれる。

現在、N-NOSE の実用化を目指して研究開発を進めている。大学の最先端の技術を社会に広げるためには、発明者自身が先頭に立ち、ビジネスの論理で研究開発費を集め、他社とア

口演発表

O-1 がん幹細胞マーカー CD133は細胞内に輸送されて中心体近傍に局在し、オートファジーを抑制してがん細胞の未分化能を維持する

○泉 秀樹¹⁾、李 元元¹⁾、金子 安比古²⁾、中川原 章¹⁾³⁾

1) 佐賀県医療センター好生館 ライフサイエンス研究所 疾患遺伝子研究部、
2) 埼玉県立がんセンター臨床腫瘍研究所、3) 佐賀ハイマット

CD133は、おもに正常幹細胞やがん幹細胞の細胞膜に局在する膜貫通タンパク質である。CD133はまた細胞質に局在することが報告されているが、その輸送経路や機能のメカニズムは現在のところ不明である。私たちは、Src ファミリーキナーゼ活性が低い場合、細胞膜型 CD133がHDAC6と相互作用し、インターナリゼーションおよびエンドソーム形成後に、ダイニンを介した細胞内輸送により、中心体近傍に輸送されることを発見した。次いで、中心体近傍型の CD133は、オートファジーの開始に関わる分子である GABARAP を捕捉し、GABARAP 媒介性の ULK1 活性化およびその後のオートファジーの開始を阻害した。さらに、中心体近傍型の CD133は、オートファジーを阻害することにより、一次繊毛形成や神経突起伸長などの細胞分化を抑制した。これらの結果から、中心体近傍型の CD133は、がん細胞を未分化状態に維持する上で重要な役割を果たすことが明らかになった。

A series of horizontal dashed lines spanning the width of the page, intended for writing or drawing.

開催一覧

	開催年	開催日	タイトル	開催地	会 長
第 1 回	1988		第 1 回分子病理学研究会	東京都中央区	廣橋 説雄
第 2 回	1989		第 2 回分子病理学研究会	東京都中央区	廣橋 説雄
第 3 回			第 3 回分子病理学研究会	東京都中央区	廣橋 説雄
第 4 回	1990		第 1 回婦恋シンポ	群馬県吾妻郡婦恋村	廣橋 説雄
第 5 回	1991		第 5 回分子病理学研究会	東京都中央区	廣橋 説雄
第 6 回	1991		第 2 回婦恋シンポ	群馬県吾妻郡婦恋村	廣橋 説雄
第 7 回	1992	1/18	第 7 回分子病理学研究会	東京都中央区	廣橋 説雄
第 8 回	1992	7/25～27	第 3 回婦恋シンポ	群馬県吾妻郡婦恋村	廣橋 説雄
第 9 回	1993	1/23	第 9 回分子病理学研究会	東京都中央区	廣橋 説雄
第 10 回	1993		第 4 回婦恋シンポ	群馬県吾妻郡婦恋村	廣橋 説雄
第 11 回	1994	1/29	第 11 回分子病理学研究会	東京都中央区	廣橋 説雄
第 12 回	1994	7/30～8/1	第 5 回婦恋シンポ	群馬県吾妻郡婦恋村	廣橋 説雄
第 13 回	1995	1/28	第 13 回分子病理学研究会	東京都中央区	廣橋 説雄
第 14 回	1995	7/29～31	第 6 回婦恋シンポ	東京都中央区	廣橋 説雄
第 15 回	1996	8/17～19	第 1 回山中湖シンポ	山梨県南都留郡山中湖村	堤 寛
第 16 回	1997	8/2～3	第 2 回山中湖シンポ	山梨県南都留郡山中湖村	前田 盛
第 17 回	1998	8/22～23	第 3 回山中湖シンポ	山梨県南都留郡山中湖村	梶村 春彦
第 18 回	1999	8/5～7	婦恋シンポジウム	群馬県吾妻郡婦恋村	守内 哲也
第 19 回	2000	7/20～22	長崎シンポジウム	長崎市	小路 武彦
第 20 回	2001	7/18～20	田沢湖シンポジウム	秋田県仙北郡田沢湖町	榎本 克彦
第 21 回	2002	7/20～21	つくばシンポジウム	茨城県稲敷郡美浦村	野口 雅之
第 22 回	2003	7/19～20	柏シンポジウム	茨城県稲敷郡美浦村	落合 淳志
第 23 回	2004	7/31～8/1	ひろしま本郷シンポジウム	広島県三原市本郷町	安井 弥
第 24 回	2005	6/16～18	支笏湖シンポジウム	北海道千歳市支笏湖	多田 光宏
第 25 回	2006	8/4～5	東京シンポジウム	東京都台東区	樋野 興夫
第 26 回	2007	6/8～9	湘南シンポジウム	神奈川県三浦郡葉山町	柳原 五吉
第 27 回	2008	8/2～3	@湘南国際村	神奈川県三浦郡葉山町	青木 一郎
第 28 回	2009	7/18～19	分子病理学研究会 ～神戸～	兵庫県神戸市	横崎 宏
第 29 回	2010	7/31～8/1	分子病理学研究会 ～つくば～	茨城県つくば市	加藤 光保
第 30 回	2011	7/22～24	瀬戸内シンポジウム	岡山県倉敷市児島	刀襦 重信
第 31 回	2012	7/21～22	恵那シンポジウム	岐阜県恵那市	益谷美都子
第 32 回	2013	7/20～21	吉野シンポジウム	奈良県吉野町	國安 弘基
第 33 回	2014	7/25～26	宮城蔵王シンポジウム	宮城県蔵王町	福本 学
第 34 回	2015	7/25～26	神戸シンポジウム	兵庫県神戸市	鶴田 大輔 仲谷 和記
第 35 回	2016	7/15～16	第 35 回分子病理学研究会	神奈川県横浜市	坂元 亨宇
第 36 回	2017	7/21～7/23	フェニックスシンポジウム in 宮崎	宮崎県宮崎市	菱川 善隆
第 37 回	2018	7/7～7/8	はがくれシンポジウム	佐賀県佐賀市	青木 茂久

協賛施設・企業一覧

医療法人 仁和会 小池病院

医療法人 牧野医院

学校法人 国際医療福祉大学・医療法人社団 高邦会 高木病院

医療法人 まなべ消化器内科クリニック

医療法人 みねこ皮膚科クリニック

医療法人 YT 美川眼科医院

独立行政法人 労働者健康安全機構 長崎労災病院

医療法人 くさば耳鼻咽喉科クリニック

医療法人 五代会 山地外科胃腸科医院

やまだ耳鼻咽喉科

祐徳薬品工業株式会社

日本ジェネティクス株式会社

株式会社ダイセル

ネッパジーン株式会社

MSD 株式会社

山下医科器械株式会社

正晃株式会社

謝 辞

本学術研究会の開催にあたり、過分なご支援を頂き誠にありがとうございました。
この場をお借りして、上記施設・企業に心より御礼申し上げます。

第37回分子病理学研究会
プログラム・抄録集

会 長：青木 茂久

事務局：佐賀大学医学部病因病態科学講座 臨床病態病理学分野
〒849-8501 佐賀市鍋島5-1-1
TEL：0952-34-2239 (office hours 10:00-15:00)
FAX：0952-34-2055
E-mail: 37thmolpathol@gmail.com

出 版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<http://www.secand.jp/>

